

鹿児島大学病院広報誌

# だより

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部

2号  
2006.7



## 〈目次〉

### 【診療科・部門紹介】

≫ 温熱療法室のご案内

≫ 小児歯科

≫ 放射線部

≫ 検査部

● 医科・歯科外来ご案内図

● 夏の紫外線対策について

● 交通案内

## 病院の理念と基本方針

### 理念

鹿児島大学病院は、常に患者さん本位の原点に立ち、地域社会の中核医療機関として質の高い医療を提供し、高度医療機関としての役割を果たすとともに、医学・歯学の教育と研究の充実を図り、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、もって医学・歯学の発展に貢献します。

### 基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、診療案内を理解して安心と納得のいく医療に心掛けます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として地域に貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医師、歯科医師を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

# 温熱療法室(サウナ治療室)のご案内

平成12年4月、鹿児島大学病院の中央診療棟の一角で温熱療法が開始されてから約6年が経過しました。毎日患者様の訴えに耳を傾けてやさしい笑顔で対応するスタッフの皆さんのおかげで、温熱治療室は患者様の笑い声が聞かれる「癒しの場」となっています。温熱療法を楽しみに来院される患者様の姿が印象的です。大学病院の遠赤外線均等低温サウナ治療室で温熱療法を受ける患者様も増加の一途をたどり、毎日約30人の患者様が治療を受けられており、サウナ治療室も手狭になっていました。今回、病院長をはじめリハビリテーション室関係者のご理解を頂き、現在のサウナ室の約2倍に拡充・整備され、最新式の遠赤外線均等低温サウナ治療室も新設されました。

平成元年に霧島リハビリテーションセンターで鄭 忠和教授が温熱療法を初めて心不全患者に応用しましたが、現在では、心不全のみならず、閉塞性動脈硬化症(ASO)、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、術後イレウス、関節リウマチの痛み、慢性疼痛、慢性疲労症候群、軽症うつ病などその適応疾患は広がっています。NHKのテレビ放映や新聞報道で温熱療法に対する関心が高まり、全国の患者様からの問い合わせや紹介が増え、スタッフ一同うれしい悲鳴をあげています。皆様もこの「癒しの治療室」をぜひご活用ください。温熱療法(サウナ治療)のお問い合わせは代表099-275-5316までご連絡ください。



サウナ室外観



サウナ室内観

# 子どもたちの口腔の健康を守る 小児歯科

小児歯科は虫歯治療だけをおこなう診療科と思われがちですが、さまざまな歯科治療技術を通して、子どもたちの口腔の健康増進を目指しています。

診療内容としては、虫歯や歯周病の予防管理、恐がりやで通常治療が受け入れられない小児の虫歯治療、外傷で歯が欠けたり抜けたりした場合の対応、正常な歯の生え方を障害する埋伏過剰歯や歯牙腫の摘出手術、言葉の学習や歯磨きの支障となる上唇小帯・舌小帯のレーザー手術、思春期前後の若年者顎関節症への対応などがあります。また、特に力を入れている分野は、障害児(者)の口腔健康管理、歯ならびやかみ合せに異常のある低年齢児の早期咬合治療、およびホッツ床を使った口唇口蓋裂児の顎誘導と哺乳指導です。

障害のある方で、通常の歯科治療を受け入れることが難しい場合は、全身麻酔下で集中的に治療を行います。その後は定期的な検診と予防処置により口腔の健康を維持します。また、幼児期の歯ならびやかみ合せに大きな異常があると、顔が曲がって成長したり、食べ方や話し方に支障が生じることがありますので、早期の対応を考えた方が良いでしょう。

お子様のお口に関するご相談がありましたら、ご遠慮なく小児歯科(TEL 099-275-6630)にご連絡ください。



咬合治療前(初診時5歳)  
前歯と右奥歯に噛み合せの異常があり、  
上下の正中関係もずれている



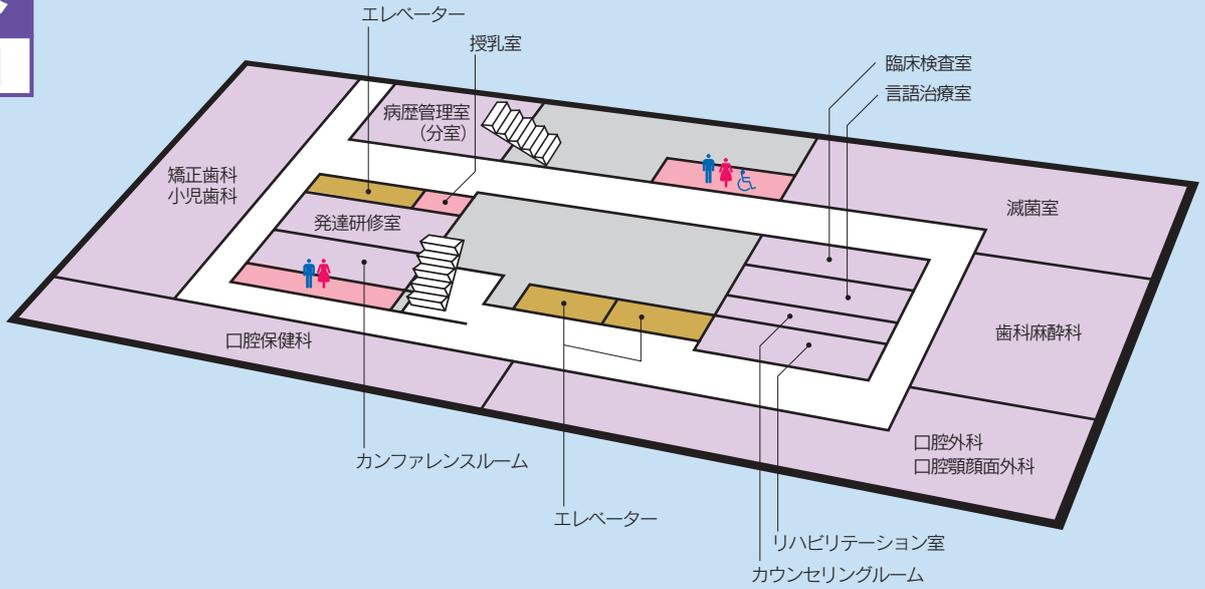
咬合治療後  
3か月間の治療で噛み合せは改善し、正中も一致した



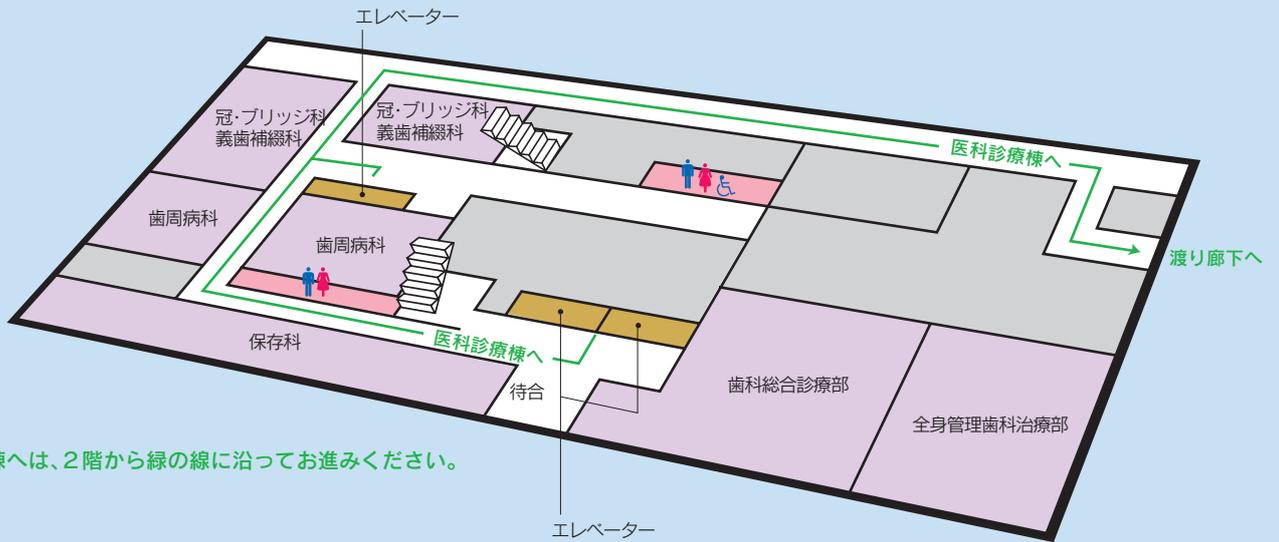
# 歯科 外来

## ご案内図

3F

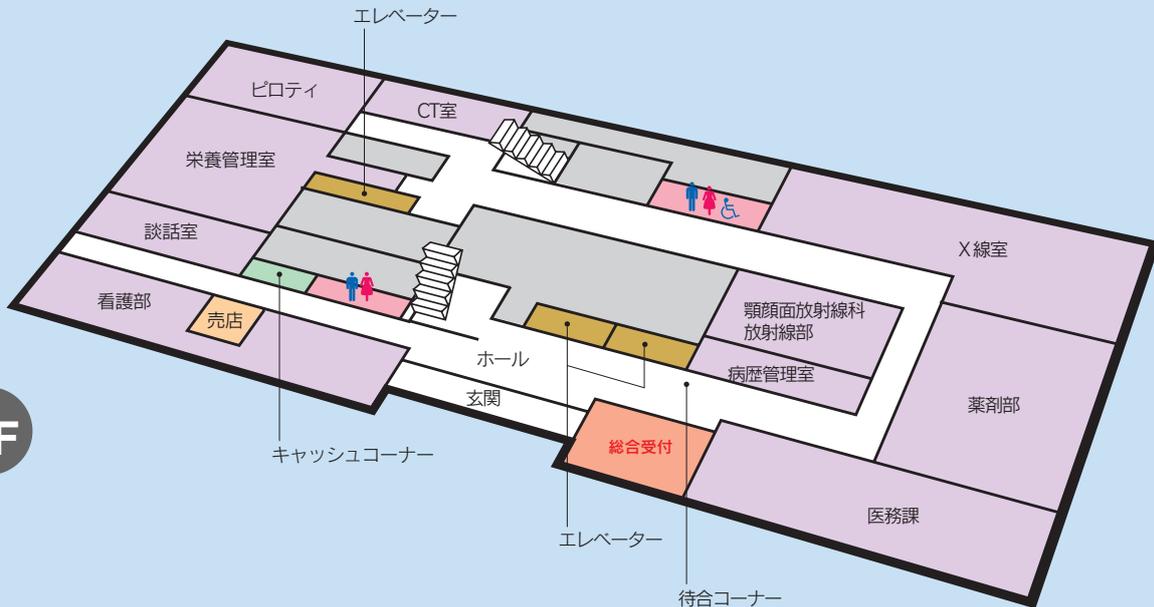


2F



※医科診療棟へは、2階から緑の線に沿ってお進みください。

1F



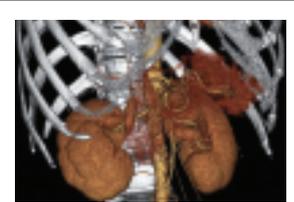
# 放射線などを利用した診断治療を行う放射線部

当放射線部は中央診療部門のなかで放射線などを利用した診断治療を行っております。画像診断やそれを媒介とした検査や治療、放射線治療などがおもな診療内容で、安全でより先進の医療を提供できるよう、施設の整備、人員の教育研修、他部署との連携、運用効率の向上など、より高いレベルを目指して日々の診療に従事しています。

装置設備については、たとえば昨年度に導入しましたマルチディテクタCTでは従来型と比較して高速に撮像でき、より高精細で多方向に再構成された画像を提供しています。

4月にはRI(核医学検査)に最新の画像装置を導入し診療に供しています。年度内にはMRI(核磁気共鳴画像装置)の更新も予定しています。

昨今の医療は、技術的な面のみならず、多方面からの要請に同時に応えなければならなくなっており、たとえば患者様方には検査までの待ち時間や検査時間、検査後の待ち時間にいたるまで、ご迷惑をおかけしております。一例としては、医療事故防止対策の一環として何度もお名前を確認させていただいております。ご不快に思われる方もおありでしょうが、ご理解とご協力をお願いします。



16列マルチディテクタ  
CT腹部血管三次元画像

## ▶ 臨床技術部放射線部門ホームページ

<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~gijutubu/> もぜひご覧ください。

## ! 皮膚科から ワンポイント・アドバイス 夏の紫外線対策について

太陽紫外線は肌のシミ、シワの原因となること、皮膚の免疫力を低下させること、皮膚細胞の遺伝子を傷つけて皮膚癌の原因となることなどが明らかになり、最近では紫外線対策の大切さが広く知られるようになってきました。

さて実際の紫外線対策としては、つばの広い帽子をかぶる、しっかりした織目の生地の服を着る、日差しの強い日中の外出を控える、日焼け止めクリームを上手に使うことなどがあげられます。日焼け止めクリームの効果は紫外線防御指数(SPF)で示されます。最近ではテレビのコマーシャルでも“SPF 30”などと謳っているようです。平均的な日本人が真夏の日差しに素肌をさらすと20分程度で赤くなります。SPF 30のクリームを用いた場合、その30倍の時間、10時間で赤くなることを示します。SPFは1センチ四方(1cm<sup>2</sup>)あたり2mg(1gの500分の1)塗ったときの効果を表しています。ご使用にあたっては容器から人差し指の第1関節から先に押し出した量(写真)が約0.5g(500mg)で250cm<sup>2</sup>、おおよそ手のひら二つ分ということを目安にされたら良いでしょう。

なお、気象庁のデータによりますと、鹿児島では1年間の紫外線総量の約70%を4月から9月までの半年間に、夏の1日の総量の約60%を午前10時から午後2時の4時間で浴びています。夏の紫外線対策が大切であることがわかりますが、逆に秋から冬にかけても約3割の紫外線を浴びているわけですから、紫外線対策は年間を通して行なうことが大切です。



写真の量が約0.5g

# 迅速で充実したサービスを目指して 検査部

健康診断や、体調不良などで病院に行った時に、心電図検査を受けられたり、採血をされた経験のある方は多いと思います。

その検査を担うのが、私たち臨床検査技師です。臨床検査を大きく分けると以下の2つになります。

**生理検査** 心電図・脳波・超音波(エコー)など患者様の身体に直接触れさせていただいて検査を行います。

生理検査部門では、少し前に新聞やテレビなど、メディアで取り上げられた『睡眠時無呼吸症候群』の診断・治療に関わる一泊検査も実施しています。

**検体検査** 採血された血液などを用いて検査を行います。

検体検査は臨床化学・血液・免疫血清・細菌・遺伝子・病理・輸血など多くの分野の検査があります。特に南九州に多い成人T細胞白血病をはじめとする各種白血病の細胞解析などにも力を注いでいます。また、臨床化学や血液検査では、特殊項目を除く一般的な生化学項目(健康診断などで測定されるような項目)については検体が検査室に提出されてから、1時間以内で測定結果を出すよう日々努力しています。

2007年1月には検体検査システムを一新する事になっており、今まで以上に迅速で充実した患者様サービスを目指して頑張ります。



## 病院所在地



※指宿スカイラインで、指宿方面からお越しの方は、山田I.C.では出られませんので、中山I.C.で出てください。

※診療のため来院された方は、入構する際受け取った「駐車カード」を持参し、駐車料無料取扱いカウンター(2階)で手続きすると無料になります。時間外・休日は、1階防災センターで手続きしてください。なお、歯科部門は会計窓口(1階)にお出ください。

## 交通機関

**JR** 指宿枕崎線「宇宿駅」下車1.2km(徒歩約15分、バス「宇宿小前」乗車約5分)

**市電** 谷山線「脇田」電停下車1.3km(徒歩約15分、バス「宇宿小前」乗車約5分)

**バス** 鹿児島市営:大学病院経由桜ヶ丘線(18番)

▶朝夕の桜ヶ丘団地～市役所前の直行便

市役所前～鹿児島中央駅～新屋敷～郡元～脇田電停前～大学病院前～歯学部病院前～桜ヶ丘団地

▶脇田電停前～桜ヶ丘団地間の循環バス(シャトルバス)

脇田電停～大学病院前～歯学部病院前～桜ヶ丘県営住宅前～桜ヶ丘中央公園前～桜丘東小前

※鹿児島中央駅、市役所方面は市電へ乗り換え

**鹿児島交通:大学病院線(14番)**

山形屋～鹿児島中央駅～中洲通～荒田八幡～郡元～脇田～大学病院

**鹿児島交通:鴨池港～桜ヶ丘線**

鴨池港～南小前～脇田～大学病院～歯学部病院前～桜ヶ丘

**鹿児島交通:北埠頭～(広木経由)～魚見原線(18番線)**

北埠頭～鹿児島駅～金生町～鹿児島中央駅～田上～広木住宅～桜ヶ丘南～(歯学病院前～鹿大病院～)魚見原

※16:10北埠頭発以降の時刻の便は大学病院を通りません。

## 広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気の一般知識など知っておきたいことがありましたら、お知らせください。  
また、「桜だより」への患者様、県民の皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

## 鹿児島大学病院広報誌 桜だより(2号)

2006(平成18)年7月発行

発行/鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】

<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~hosp/t-page/>